

平成26年7月19日（土）の「仏教女性の集い」

今年は祇園祭りの後祭りの行列復興で、鉦立の準備に忙しさを賑わう町内や三連休の始まりでそぞろ歩く観光客の波に、いつも以上の活気が溢れた四条界限。そんな賑わいとは別世界の此処、『吉水尼僧庵』で静かに「仏教女性の集い」は開催されました。

近藤先生はご法話の冒頭、今日、佛教大学では法然学会が開かれており、その記念講演に「いま、なぜ法然か」と言う講題がなされています。法然上人は幼いころにお父様が殺されて遺言に「相手を恨んではならぬ。相手を恨めば子々孫々争いが絶えない」と聞かされた事を生涯胸に置かれて出家されました。恨みに報いるには恨みを持ってするな！今、世界で起きている紛争・撃墜と騒がしいこの時に法然上人が教えを説かれた内容を基本中の基本として行きたいものです。と力強くお話をされました。

前回に続いて、法然上人御法語「後篇」の巻末に書かれている和歌についてのお話です。

「佛法に逢うて身命を捨つると云える事を」

かりそめの 色のゆかりの 恋にだに あふには身をも をしみやはする

仏法に逢うためには身を惜しまない

涅槃経で「雪山童子が仏法の話聞く為に羅刹に身を投じた」と言う話も例えて話して下さいました。

「勝尾寺にて」

柴の戸に あけくれかかる 白雲を いつむらさきの 色にみなさん

讃岐へ流されてから、京都に戻されるまで勝尾寺で三年ほど過ごされた時に詠まれた御歌
意味は（簡素な家に、朝夕に掛かる白雲が晴れて、来迎の色（紫）になるのは何時なんだろう。）

「極楽往生の行業には余の行をさしおきて ただ本願の念佛をつとむべしと
云うことを」

往生をする為には、他の行があるかもしれないが、本願の念佛を唱えることが大切
と詠まれた御歌

「光明遍照十方世界念佛衆生攝取不捨の心を」

阿弥陀様のお心です。

法然上人の思い、深さ、広がりや込められた歌であると話して下さいました。

月影の いたらぬ里は なけれども ながむる人の ところにぞすむ

浄土宗の宗歌とされ、続千載集にも載せてあるものです。

月の光が届かない所は何処もないが、眺める人にこそ届く、眺めない人には照らしていないのと同じです。

「三心の中の至誠心の心を」詠まれて

念仏をする時は三つの心を持って下さい。至誠心（真の心）を持ってすれば往生は非常に簡単な事です。真実の心があれば非常に簡単に往生が出来ます。

他 四首

力強く話して下さる近藤先生はいつも、いまが大切です。時は、瞬間瞬間に泡のように消えていき、常に移り変わっているのです。

生命だって破骨細胞と生成細胞で生まれ変わっています。昨日と今日は同じ身体だと思っても壊されて新しく生成されていくのです。仏教の基本である無常、此の世のすべての物は生滅し、留まる事無く常に移っていく事です。

武田病院の武田道子さんが言われた、3つのかく、それは「汗をかく」「物をかく」「恥をかく」です。運動をして汗を掻く、字を書く、社会に出て恥をかく。コミュニケーションを持った生活を送り、自分の身体は自分で鍛えて智慧と慈悲を持った生活をして下さい。

と、結ばれてご法話は終わられました。

(参加者感想 K. O)



座談会の席では色々な意見・感想が述べられていました。日常生活の喜び、憂いを話してみたりアドバイスをもらったりと賑やかに、時が過ぎるのを忘れるほどでした。もう少しご法話の中にあつた「雪山(せつせん)童子(どうじ)」のお話を聞かせて頂きたく思いました。

次回の「仏教女性の集い」は平成26年9月13日です。

「仏教女性の集い」は毎月第3土曜日、1時～4時

参加費 1,000円 宗教・宗派は問いません。

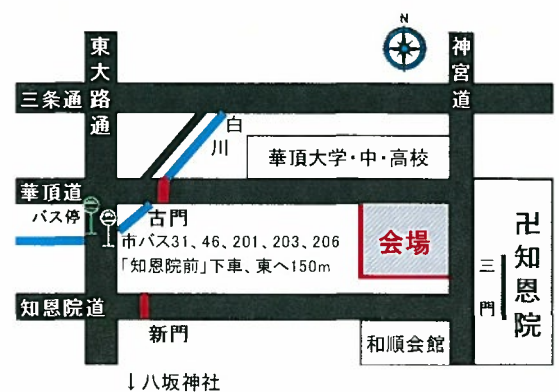
条件は女性であることだけです。

多数のご参加お待ちしております。

市バス [知恩院前] 下車、東へ徒歩 150m

『吉水尼僧庵』(旧尼僧道場跡) で開催致しております。

問い合わせは 隆彦院 075-561-7581 まで



京都市東山区林下町400-1 吉水尼僧庵(旧尼僧道場)

「仏教女性の集い」の様子は浄土宗吉水会のホームページに掲載しております。

<お知らせ>

近藤先生がご法話下さいました法然上人御法語「前編」が今年出版されます。